

私の名前は玉越ゆきあです

辺境の小さな村で作物を作って暮らしています
人口は少ないですが、みんなで力を合わせて
自給自足で生活しています

何不自由なく暮らしてきた私も
もう少しで結婚ができる歳になりました
もうじき、結婚相手を決める行事があるので





祭り当日、この日は
深夜まで明かりの
消えない家があった

『あっ♡あうっ♡』

「発だしたら
交代だろ!」

『くっそ我慢できねえ
くわえてくれッ!!』

『あんま無駄打ちすると後悔すんべー』

『うるせえ!!』

後悔なんて先でも後でも

勝手に立たせてる!!

オレのは今勃ってんだッ!!」

「イッたんなら早く
変われえ！」

『イツてねえど
漏れてるだけだあ』

『ああああッ
ずっとこの顔にぶっかけてえって
思ってたんだ!!』

『受け取ってくれえ!』

『ひゃんツ♡』

キ₂ンレ
キ₂ンレ



それは、ある年齢を迎えた娘の誕生日に村の男達とまぐわい

見事、子を宿らせた男の嫁を迎える

この祭りは代々受け継がれてきた事でありこの事に疑問を持つものなどいない





この習わしを続けてきたからこそ
この村では子供が多く

過疎化が進む現代でも
限界集落というまでには至っていない

成人祭は子供が宿ったことが
わかるまで四六時中性交をすることになり

子供が生まれるまでの1年は
基本的に家の中で子を宿す事に専念するのである















